垂水
史談会報
第 73 号
2025（令和７）年
12 月発行

【報告】

垂水高校史跡めぐりガイド

垂水高校では、毎年垂水市内の史跡めぐりを行っています。全行程徒歩で！　A～Cコースまであり、在学中の３年間で、新城地区から海潟地区までの史跡をめぐることができます。今年は、十月二十一日金曜日に実施、Cコースの市木地区から中俣、海潟地区の史跡をめぐりました。眺望が素晴らしいルートです。数日前に降った火山灰が舞っていたのがかわいそうでした。史談会の瀬角、山田、川崎、古場の４名がガイドをつとめ、地域協力隊員でもある高櫻は、高校生と一緒に元気に歩きました。高校生が、地元の史跡をめぐり、地元の歴史や文化に興味を持ってくれるとうれしいですね。

（古場　昌彦）

〈今回の行程〉

垂水高校出発
⬇ アカメンどんと田の神、市木の湧水（市木）
⬇ 大正噴火の整理耕地記念碑（市木）
⬇ 山城・垂水城跡（市木）
⬇ 廃仏毀釈の跡が残る西福寺跡（中俣）
⬇ 旧大隅線トンネル事故の碑（中俣）
⬇ 海潟造船所跡と旧鶴田川の欄干（海潟）
⬇ 桜公園で昼食（海潟）
⬇ 公卿石から江ノ島を眺める（海潟）
⬇ 菅原神社の桜島焼忘塔（海潟）
⬇ 子安観音（海潟）
⬇ 才原金次郎翁之碑（荒崎パーキング近く）
⬇ 第六垂水丸遭難者慰霊碑（旧垂水フェリー乗り場のそば）
⬇ 垂水高校帰着

廃仏毀釈の痕跡が！

公卿石から江ノ島を

〈生徒さんの感想から〉

・一番心に残ったのは、最後の第六垂水丸の話です。第六垂水丸の話は、何度か聞いていましたが、こんなにも大変だったと改めて思いました。「かわいそう」だけで終わらせないために、今後たくさんの人にこの話を広げていきたい、そしてこのようなことがないようにしたいと思いました。

・史跡をめぐってみて、垂水は史跡がたくさんあるんだと改めて思いました。近くを車で通ったことがある場所にあったり、普段車でも通らず、見たことがなかった場所にあったりなど、今回の史跡めぐりがなければ知ることはなかったと思いました。道のりは長く、歩くことは大変だったけど、地元垂水の歴史などを知ることができてよかったです。どの場所も、なぜここにあるのか、どんな意味があるのかを、どんなことがあったのかをわかりやすく丁寧に教えていただきました。

まち歩き講座（ブラセスミ）第６回

～　あなたの知らない垂水が見つかる。
瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ　～

まち歩き講座（通称 ブラセスミ）も、全十回の半数を過ぎて、折り返し点の第６回を迎えました。前回に続き、今回も絶好のまち歩き日和の快晴。十一月二十三日、白山神社登山口に集合し、平家の落人の里・段集落の旧道をブラブラ歩きました。段集落までは、かつては、細くうねうねと曲がる山道しかなく、往来に難儀するところだったそうです。そういう場所だったからこそ、壇ノ浦の戦いの後、落人たちが住むことになったのでしょう。

今回は、まち歩き講座の参加者である前木場賢（まえこばけん）さんが、段集落の近くの出身ということもあり、瀬角さんのトークに加えて、前木場さんが、子どものころの思い出を交え、古い道の話なども語ってくださりとても興味深かったです。段集落の旧道は、車ではまず通らないであろう細い道で、風情がありました。今では通ることができない道があちこちにありそうです。

坂を下り、いよいよこの日の目玉、平家墓を訪れました。西尾家の前庭に４基の五輪塔が残されています。今は住む人のなく誰かが手入れをしないといけない家です。平家墓は、日本史的な大きな出来事（壇ノ浦の戦い）にもつながる大切な史跡です。少なくても年に一度は草を払うなどして、見学しやすい環境を整える必要があると思います。（平家墓は、五輪塔という供養塔・墓です。詳しくは裏面の「研究ノート」で！）

平家墓の見学を終えて、次は、小谷集落の「乳どん」を目指してさらに坂を下りました。途中、前木場集落を通りました。そこで、前出の前木場さんから、この地で山崩れがあり、犠牲者が出た話を聞きました。生々しい体験談で、厳粛な気持ちになりました。前木場集落から段集落の方を見ると、家があるあたりも生い茂る樹木にさえぎられて、山や森にしか見えません。何百年間もこういう景色だったのかなと、改めて落人の里を実感しました。小谷集落は、前木場集落と隣接する集落です。案内板に沿って、乳どん（ちっどん）の祠へ向かいました。乳どんは、昔からこの神様にお参りすると女の人はよく乳が出て、元気な子どもを育てることができるとされ、土地の人々はこの神様を深く信仰してきたそうです。乳どんを後にして、すぐ近くにある「こうもり穴（ごな）」に向かいました。ここは、かくれ念仏の洞窟です。しかし、道が荒れ果てていて今回は山道の入り口で断念しました。残念！

今回のブラセスミは、地元の前木場さんの体験談がプラスされ、より深みのあるまち歩きでした。

（古場　昌彦）

＜次回のまち歩き講座＞

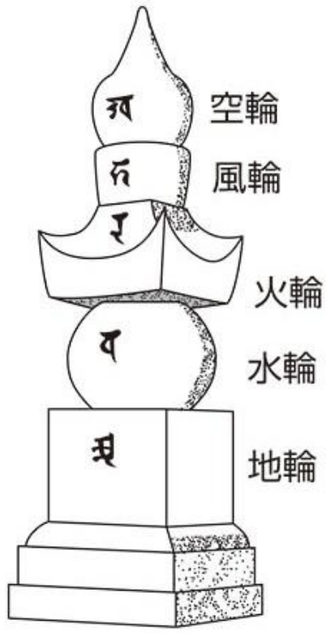
第七回　十二月十四日（日）
午前９時　海潟漁港の桜島側　ホタル公園
※高倉健さん主演の映画「ホタル」の撮影地です。そこを出発して、海潟造船所跡、田の神、集落の路地内をブラブラします。
午前十一時か十一時半ごろ終了予定。
★天候によっては、座学になります。中俣公民館にて。
★史談会会員は、いつでも参加できます。（会員特典です。）

『研究ノート　五輪塔』

五輪塔は、平安時代から使われてきた供養塔やお墓の一種で、垂水市内でも、近世以前のお墓でよく見られるものです。

下からの、「地・水・火・風・空」の五大思想を表す5つの石(輪)を積み重ねた形をしています。密教の教えに基づき、この5つの要素で構成された五輪塔で供養することにより、故人は「五大」(宇宙)に還元され、極楽浄土へ往生するとされています。

当初は、貴族などが用いていましたが、鎌倉時代から室町時代にかけて武士や庶民の間にも広まり、一時は日本のお墓の主流となりました。江戸時代以降は、建てられることは少なくなります。



プレセスミ

十一月五日、ブラセスミに先立ち、平家墓周辺を清掃しました。

ブックオフセスミ

十一月二日の産業祭で、古本市を行いました。

「垂水の史跡・文化財」展②を開催

十一月一日(土)～三十日(日)、垂水市立図書館にて「垂水の史跡・文化財」展②を開催しました。今回は、『垂水島津家墓所復旧作業の現状』、『垂水の俳人「高浜虚子」につながる人々とその作品』、なつかしいマッチ箱の展示などを行いました。

紙芝居「垂水の最も古い伝説」初披露

十一月二十九日、垂水市立図書館で「冬のおはなしシアター」が行なわれました。この日は、垂水児童クラブの一・二年生、カトリック幼稚園と慈恩保育園の子どもたち合計四十一名、参観に来られた大人を合わせると五十名を優に超える多くのみなさんに見守られて、垂水の民話を紙芝居にした「垂水の最も古い伝説」の初披露ができました。紙芝居の絵を描いてくださった足立昇さん（東桜島在住）が、自ら読んでくださいました。とてもお上手で、「もともと何のお仕事をされていたのだろう?」と話題になりました。来年以降、増刷して、各小学校、幼稚園、保育園、こども園に配り、垂水の子どもたちに親しまれるお話になってくれればと思います。

（古場　昌彦）

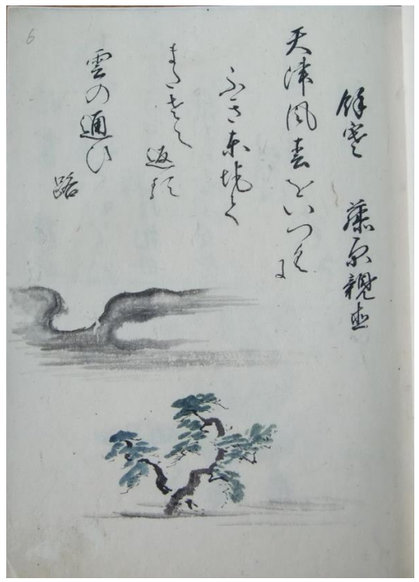
<垂城三十六歌撰　その6>

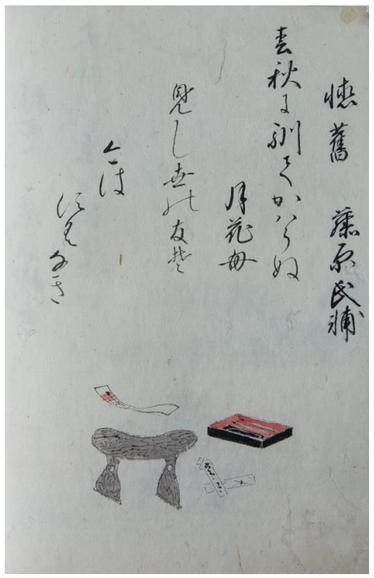
餘寒　藤原親直

天津風春をいつくに
　ふきとちて
　またさえ返る
　雲の通ひ
　路

懷舊　藤原氏輔

春秋に馴てかはらぬ
　月花も
　見し世の友そ
　今は
　すくなき





（翻刻・瀬角龍平）

垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。１８３５年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで１６５人の名と２０００首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた３６人を選んで「垂城三十六歌撰」と称しました。

◇「蝶の話」は、今月はお休みします。